



夏休み体験館

〜まが玉をつくろう〜

七月二十二日(月)から八月二十五日(日)まで浜松市博物館では「夏休み体験館」が催され、多くの子供たちやそのご家族が来館しました。

「オリジナルまが玉づくり」と「クイズラリー」は期間中毎日開催されました。毎年恒例のイベントとして人気を集めるまが玉づくりについては、以下に詳しく記事を設けています。

日曜日限定の体験メニューでは「カラムシすだねづくり」や「火おこし体験」などが、週替わりの体験メニューでは「風鈴付け体験」「オリジナルうちわづくり」「縄文キーホルダーづくり」が行われ、どのイベントの参加者も楽しんでいる様子が見られました。

まが玉は石でできた装身具(アクセサリー)です。縄文時代から古墳時代にかけて作られました。元々は、縄文時代に動物の牙や骨で作った飾りがはじまりだと言われています。古墳から見つかったときの様子や人物埴輪などから、まが玉はほかの様々な種類の玉とともに、首かざりとして使われていたと推測されています。当博物館の常設展示では、めのう製と碧玉製と滑石製のまが玉を見ることが出来ます。「オリジナルまが玉づくり」では、中でもとても柔らかい滑石という石を使用しました。古墳時代には滑石で作られたまが玉は、装身具ではなく、お祭りや儀式などで使われていたようです。

「オリジナルまが玉づくり」潜入レポート
夏休み期間中、毎日開催され、大人気だった「オリジナルまが玉づくり」に、私たちインターンシップ実習生も参加させていただきました。その中で、お客様に対して「作ったまが玉はどうされますか。」という質問をしました。お客様からは「コレクションにする。」「家族へのお土産にする。」「催眠術の道具に見立てて遊ぶ。」「アクセサリーにする。」といった多種多様なご返答をいただきました。中には、「既に三個作った。」「昨日も作りに来た。」「などと語るリピーターの方や、真剣にまが玉を磨き続ける親御さんの姿がありました。浜松市博物館でのまが玉づくりが毎年の恒例行事だと話してくださるお客様もいらっしゃいました。

まが玉の削り方



まが玉づくりの様子

【博物館所蔵資料の紹介】

古代のアクセサリ



縄文時代の
アクセサリ

おもて面では古代のアクセサリに使われていたまが玉について触れましたが、ここからは浜松市博物館に所蔵されているアクセサリを紹介します。

① 耳かざり

耳たぶに孔をあけ、耳かざりをはめる習俗は縄文時代

を通じて流行しました。きわめて多様な耳かざりが作られました。弥生人にはこの習俗は引き継がれませんでした。古墳時代には再び用いられるようになったことが出土品から推測されます。

② 首かざり

首かざり（ネックレス）は各時代を通じて流行しました。

石・金属・牙など美しい素材が選ばれました。垂れかざりを胸の中心におく垂れかざり（ペンダント）と複数の飾りを数珠のように連ねた首かざりが基本でした。古墳時代にはまが玉と管玉を使った首かざりが主流になりました。



首かざり

③ 腕かざり

腕かざり（ブレスレット）は首かざりとともに早くから作られ始めました。時代によって形と材質が異なり、貝・木・玉・石・金属などを素材としていました。古墳時代には腕にはめることはなく、豪族の身辺に置き、権力の証とされました。

このように縄文・弥生・古墳時代にかけて人々は現代と同じように様々なアクセサリで身を飾っていました。しかし、アクセサリの持つ意味は現代と異なり、権力の象徴や呪術、通過儀礼としての役割も果たしていたと考えられています。ぜひ、博物館にいらしてご覧ください。

催し物のご案内

★特別展「古代東海道駅伝展」

10月5日（土）～11月24日（日）
古代の道と交通をテーマに遠江国、駿河国などの東海道諸国と平城宮の発掘出土品を紹介します。



○伊場遺跡見学会

10月12日（土）午前10時～12時
会 場：伊場遺跡公園
案内人：文化財課職員

○ギャラリートーク

10月16日（水）午後2時～

★社会科自由研究優秀作品展

10月5日（土）～10月27日（日）

★かやぶき屋根の下で聞く日本の昔ばなし

10月12日（土）午後2時～
会 場：蜷塚公園内旧高山家住宅
参加費：無料
※事前申込み不要。直接、会場へ。



浜松市博物館

開館時間：9時～17時

9・10月の休館日：9/17～30、10/1～4、7、15

〒432-8018 静岡県浜松市中区蜷塚四丁目22番1号

電話：053-456-2208

FAX：053-456-2275

Eメール：hamahaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp

HP：https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/